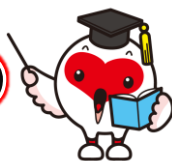


これからの社会に欠かせない存在！！

「社会教育士」ってどんな人？

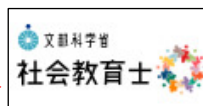


社会教育士

社会教育士と聞いて、耳馴染みのない方も多いのではないのでしょうか。今、社会教育士は、地域の複雑かつ多様な課題を解決に導くキーマンとして今まさに注目されており、国や各自治体が積極的な取得を呼び掛けています。今回は、社会教育士がどんな方なのかを一緒に学びます。

「資格」や「職業」ではなく「称号」

詳しくはこちらをご覧ください ▶



社会教育士は、文部科学省が令和2年度に制度化した「称号」で、資格や職業のようなものではありません。認定試験のようなものではなく、社会教育主事講習や大学の養成課程で必要な単位を修得することで、社会教育士と名乗ることができるということなのです。社会教育主事講習を受講するための条件※はありますが、「称号」であるため、必要単位を修得すれば、社会教育士になることができます。

社会教育主事講習とは？

社会教育主事講習は、「社会教育主事」になるための資格取得講習で、1950年代から行われています。社会教育士と似た言葉ですが、社会教育主事は、社会教育法に基づき都道府県及び市町村の教育委員会等に置かれる専門的職員のことで、各自治体の社会教育行政の中核として、社会教育事業の企画・立案、社会教育施設や団体への指導、助言等の役割を担う行政職員をさします。なお、当センターでもこの講習を受講することができます。お気軽にお問い合わせください。

今、なぜ社会教育士が求められているのか？

現代社会は、少子高齢化や地域のつながりの希薄化、災害・環境問題など、複雑で多様な課題を抱えています。こうした課題に対して、一人一人が主体的に学び、共に考え行動できる地域づくりが求められています。そこで注目されているのが「社会教育士」です。社会教育士は、学びの場をコーディネートし、人と人、人と地域をつなぐ役割を担います。行政や学校だけでなく、NPOや企業など多様な主体と連携しながら、地域の力を引き出し、持続可能な社会の実現を支える存在として期待されています。



社会教育士に求められる能力は？

社会教育士の制度化に合わせて、社会教育主事講習や大学の養成課程の学習内容の見直しが図られました。社会教育士は、社会教育主事講習や大学の養成課程の中で、社会教育の制度や仕組み、基礎的な知識に加え、以下の3つのスキルを高めていきます。これらの知識と技能を身に付けることで、地域活動や市民活動の展開を持続的に支援していきます。

1. **ファシリテーション能力**：話し合いや活動を円滑に進めたり、活動への意欲・自発性を引き出したりする知識と技能
2. **プレゼンテーション能力**：より多くの人に分かりやすく共感しやすい方法で積極的に伝えていくための知識と技能
3. **コーディネート能力**：人と人、人と活動、組織と組織などを異なる他者どうしを上手につなぎ、調整する知識と技能

それぞれの専門性を生かした社会教育士に

上に示した3つのスキルは、社会教育士に限らずどの分野においても必要とされる能力です。社会教育士の取得は、個人のスキルアップにとどまらず、組織のマネジメント力の向上や活性化にもつながります。また、多様な職業、立場、活動場所、特技などの方が、社会教育士となることで、「十人十色の社会教育士」が生まれることになります。

新潟県教育委員会では、こういった様々な専門性をもつ社会教育士が、地域課題の解決や地域活性化に向けて様々な場所で活躍できるよう支援していきます。元気で活力ある未来の新潟県のために、あなたの力が重要です！



※ 大学・短大などを卒業、教育職員免許状（教員免許）の所有、社会教育に関する職務に2年以上従事した経験、学校などで4年以上教育に携わった経験などのいずれかが必要となります。

★新潟県の生涯学習の情報なら

ラ・ラ・ネット

検索

お問い合わせ：新潟県立生涯学習推進センター TEL 025-284-6110

『NEWS LETTER』バックナンバーはこちらから

